

令和 6 年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立国本西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和 6 年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和 6 年 4 月 18 日(木)

3 調査対象

小学校 第 6 学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第 3 学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 12 人

② 算数 12 人

5 留意事項

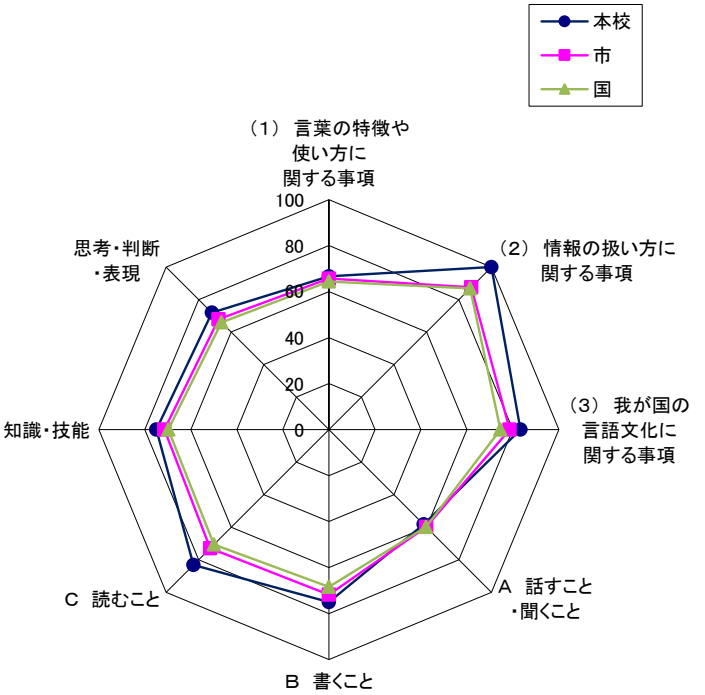
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の 2 教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立国本西小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	66.7	65.7	64.4
	(2) 情報の扱いに関する事項	100.0	87.6	86.9
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	83.3	78.6	74.6
	A 話すこと・聞くこと	58.3	59.9	59.8
	B 書くこと	75.0	71.8	68.4
	C 読むこと	83.3	72.9	70.7
観点	知識・技能	75.0	71.5	69.8
	思考・判断・表現	71.9	67.8	66.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

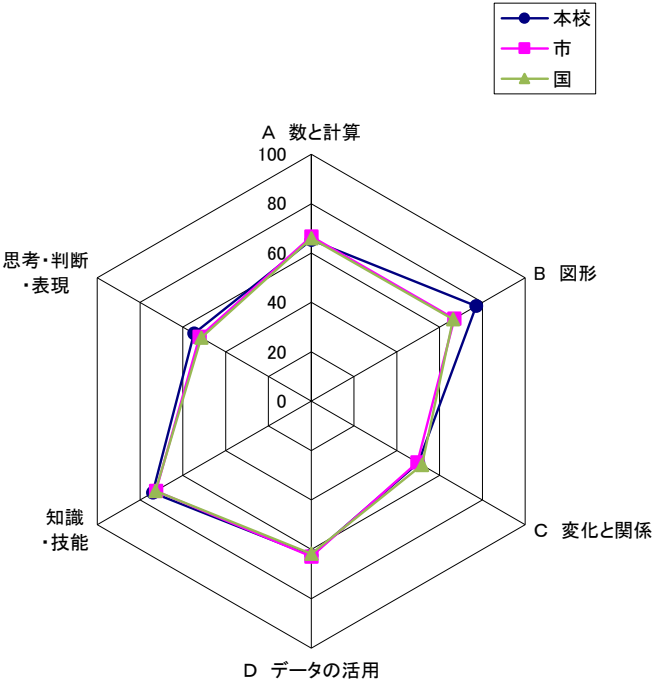
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	○平均正答率は66.7%で、市よりやや高い。特に、送り仮名に注意して漢字を書く問題は正答率が83.3%、主語と述語の関係を問う問題は正答率が75%と高い。 ●漢字を文の中で正しく使うことができるかを問う問題では、正答率が33.3%と課題が見られる。	・文章を書くときに新出漢字や既習漢字を使うよう、指導を継続する。 ・授業で振り返りを書く場面、家庭学習で作文を書く場面などでも、漢字を使うことを意識させる。 ・定期的に漢字の小テストを実施することで、定着度を把握し、個に応じた指導をしていく。
(2) 情報の扱いに関する事項	○正答率は100%で、市を12.4ポイント上回っている。情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができている。	・単に情報を収集するだけでなく、それらの関わりをを考えて分類したり、説明したりする活動を取り入れ、よりよい情報の利用の仕方を身に付けさせていく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	○平均正答率は83.3%で、市を4.7ポイント上回っている。日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができている。	・引き続き読書活動を通して、自分の考えを広げる指導の充実を図る。
A 話すこと・聞くこと	●平均正答率は58.3%で、市を1.6ポイント下回っている。資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することに課題が見られる。 ○目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することはできている。	・話し合いの学習活動を行う際には、お互いの意見の共通点や相違点、利点や問題点を意識するよう指導する。 ・情報を理解する過程と文書や発話により表現する過程に応じた学びと、精査・解釈したり考えを形成したりするなどしてよりよい表現を生み出す学びを充実させる。
B 書くこと	○平均正答率は75%で、市を3.2ポイント上回っている。目的や意図に応じて、伝えたいことを明確にしたり、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したりすることができている。	・ウェビングや取材メモを基に、自分の考えを明確にし、読み手に伝わるように工夫して書き表す活動を取り入れる。
C 読むこと	○平均正答率は、83.3%で、市を10.4ポイント上回っている。特に、物語の登場人物の相互関係や心情、人物像について捉えることができている。	・学校図書館を計画的に活用し、各教科で読む力を育み、言語能力及び情報活用能力の向上を図る授業づくりの実践に取り組む。

宇都宮市立国本西小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	65.3	66.7	66.0
	B 図形	77.1	66.9	66.3
	C 測定			
	C 変化と関係	50.0	49.6	51.7
	D データの活用	62.5	62.9	61.8
観点	知識・技能	74.1	72.6	72.8
	思考・判断・表現	54.8	52.2	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	●平均正答率は65.3%で、市を1.4ポイント下回っている。特に、計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題では、正答率が50%であり、無解答の児童も見られた。 ○数量の関係を、□を用いた式に表すことができるかどうかを見る問題では、正答率が100%であった。	・計算の仕方を式や言葉で説明する問題を、授業の中に取り入れ、児童同士で考えを共有したり、自分の考えを発表する場面を設けたりすることで、分かりやすく説明することができるよう指導する。
B 図形	○平均正答率は77.1%で、市を10.2ポイント上回っている。特に、五角柱の面の数を書き、その理由を底面と側面に着目して書く問題では、正答率が91.7%であった。 ●直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く問題では、半数以上の児童が誤答していた。	・図形の意味や性質を基に、辺の長さや角の大きさに着目し、図形の構成の仕方について考察する場を設定する。
C 変化と関係	○平均正答率は50.0%で、市を0.4ポイント上回っている。特に、家から図書館までの自転車の速さが分速何mかを書く問題では、正答率が66.7%であった。 ●道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題では、正答率が25.0%であった。	・速さを求める問題で、道のりと速さの関係をしっかりと理解できるように指導する。また、授業の中で説明の場面を設けることで、その理由も簡潔に書けるように指導する。
D データの活用	○平均正答率は62.5%で、市を1ポイント上回っている。特に、簡単な二次元表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理することができるかをみる問題では、正答率が75%であった。	・目的に応じて、複数のグラフから適切なグラフを選択し、データの特徴や傾向を捉え、必要な情報を読み取ることができるよう指導をする。

宇都宮市立国本西小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、よいところがあると思いますか」という設問では、肯定的回答が県平均より上回っている。自分自身について肯定的に捉えられていることは、児童の自己肯定感の高さと関連があると推測される。今後も、教師が認め励ます教育の充実を継続するとともに、児童同士が互いに認め合う場を設定できるように、教育活動の工夫を行っていきたい。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「学校に行くのは楽しいと思いますか」という設問では、肯定的回答の割合が100%であり、児童は、安心して学校に通うことができる。また、友達と助け合って生活していこうという意識が高いことがうかがえる。

○「国語の勉強は好きですか」「算数の勉強は好きですか」という設問では、肯定的回答の割合が100%ではないが、「国語の勉強は大切だと思いますか」「算数の勉強は大切だと思いますか」という設問では、肯定的回答が100%となっていることから、苦手意識がありながらも自分の将来にとって大切だと考え、学習に取り組んでいる様子がうかがえる。苦手意識が少なくなり、児童が興味をもてるような授業を展開していきたい。

●テレビゲームや動画視聴の時間に関する設問では、児童が平日にも長時間使用していることが分かる。スマートフォン、パソコンなどの危険な側面をきちんと理解させた上で、家庭との連携を図り、使用上のルールの話合いやフィルタリング設定を説明していく。

●5年生までの学習の中で、パソコン・タブレットなどのICT機器を活用することについて「自分の考えや意見をわかりやすく伝えることができる」「友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」という設問では、肯定的回答が県平均を下回っている。今後、より一層の効果的なICT機器の活用を図るとともに、意見を交換する場面においても積極的に活用していきたい。

宇都宮市立国本西小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・思考する活動の充実	・「取り組みたい」「考えたい」と思えるような場を設ける。	・「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」の設問の肯定的回答割合は県平均を下回っている。
・自分の考えを表現する活動の充実	・互いに考えを出し合い、集団での試行錯誤を通して、自分の考えを広げ、深めることができる集団の学び合いの場を設ける。	・「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の設問の肯定的回答割合は県平均を上回っている。また、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の設問の肯定的回答割合は100%であった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」の設問の肯定的回答割合は県平均を下回っている。	・自ら見通しを立てたり、自己の学習状況を把握して新たな学習に取り組んだりする力を育成する。	・効果的な問い返しや揺さぶりを行ったり、交流活動の工夫をしたりする等、共有の段階や吟味の段階での教師のコーディネート力の向上を図る。 ・個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた学習活動の充実を図る。